

就労初妊婦の他者との関係性における 妊娠の受容を促進する経験に関わる要因

金谷 掌子¹⁾

Factors in Experiences that Promote the Acceptance of Pregnancy in Working Primigravidae's Relationships with Others

Shoko Kaneya

要 旨

本研究の目的は、就労初妊婦の他者との関係性における妊娠の受容を促進する経験に関わる要因を明らかにすることである。独自に「夫・実母・同僚との関係性」経験項目、「自身の気持ち」経験項目を作成し、質問紙調査を行った（112部配布，98部回収，分析対象68部）。探索的因子分析の結果、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目は、「実母からのサポート・子育て伝承」「夫からの心身のサポート」「仕事における同僚からのサポート」「同僚とのアンビバレンスな関係性」の4因子が明らかになった。「自身の気持ち」経験項目は、「他者からの祝福・サポート」「妊娠の喜び」の2因子が明らかになった。「夫・実母・同僚との関係性」経験項目には、実母との関係、「自身の気持ち」経験項目、職場のソーシャル・サポートが影響していた。また、「自身の気持ち」経験項目には、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目と妊娠の受容が影響していた。

キーワード：就労初妊婦，妊娠の受容，他者との関係性

I. はじめに

今日の日本における出産数の多い女性の年代は、「30～34歳」であり、次に「25～29歳」，「35～39歳」である（母子保健の主なる統計，2010）。この年代の女性の労働力率は、年々上昇している。これまでに、「30～34歳」の労働力率は下降し、特有のM字カーブを示してきたが、M字の底が浅くなり台形の形になりつつある（厚生労働省，2010）。このような時代背景には、女性の労働をサポートする法的整備の他、出産後も女性が仕事に対して前向きな姿勢を示していること等、女性自身の仕事に対する意識（厚生労働省雇用機会均等・児童家庭局，2010）が影響していると考えられる。これらのことから女性にとって“妊娠・出産・子育て”と“働くこと”を切り離して考えることはできない時代になっ

てきている。

妊娠が判明した際、喜びを感じる一方で戸惑いや不安を抱く女性も多い。とりわけ、就労妊婦の中でも職業志向の関心性・自立性が高い初妊婦ほど受胎時の不安や戸惑いを感じるとの報告がある（西川他，2007）。また、職場での人間関係や子育ての不安等を抱え、夫や同僚に気づいて欲しいと思いながらも相談できない現状も報告（工藤，2010）されていることから、就労初妊婦は自己の妊娠に向き合う際に心理的に孤立をする可能性がある。しかし、妊娠の受容は、その後の母親役割が順調に取得されるために重要とされている（新道他，1997）他、胎児の愛着へ影響すること（岡山，2002）からも、妊娠期に妊婦が妊娠を受容することは大変重要なことである。妊娠期は役割期待を学

受付日：令和2年10月21日 受理日：令和2年12月18日

¹⁾ 岩手県立大学看護学部 Faculty of Nursing, Iwate Prefectural University

び模倣する時期 (Mercer, 1981) であり, 新しい家族メンバーとなっていない児を女性の生活空間の中に受け入れること (Reva Rubin, 1984/1997) が課題とされている。妊婦の妊娠の受容には, 女性の生活空間に存在している他者の影響が大きい。他者との関係性に着目した妊娠の受容に関する研究を概観すると, 夫及び実母との関係が良好である関連性が報告されている (植村他, 2010)。就労妊婦にとっては, 同僚との関係性も妊娠の受容に影響すると考えられ, 夫・実母・同僚との関係性に着目していく必要があると考えた。

また, 妊婦は他者の影響を受けながら自身の妊娠に向き合っていくことが考えられることから, 妊婦の日常生活における他者との関係性に焦点を当て, 妊婦の妊娠の受容を促進する具体的な経験に関わる要因を明らかにすることは新たな妊婦の支援の一助になると判断した。そのため, 第一段階として妊娠期における初妊婦の妊娠の受容を促進する夫・実母・同僚との関係性における経験に関する研究 (金谷, 2018) を行った。その結果, 初妊婦は夫や実母, 同僚との関係性において, 【全面的に支えられる経験】および【赤ちゃんの存在を認められる経験】, 【妊婦として他者と新たな関係性を築く経験】をしており, これらは初妊婦達が妊娠を肯定する経験として捉えられていた。また, 初妊婦自身の認識として, 【他者との関係性を肯定的に捉え感謝をする経験】をしていたことが明らかになった。本研究は, これら初妊婦の日常生活の経験に基づき, 就労初妊婦の他者との関係性における妊娠の受容を促進する経験に関わる要因を明らかにすることを目的とした。

II. 目的

夫・実母・同僚との関係性における日常生活の経験から, 就労初妊婦の他者との関係性における妊娠の受容を促進する経験に関わる要因を明らかにする。

III. 用語の定義

『初妊婦』: 初めて妊娠を継続している妊婦

『他者との関係性』: 日常の生活場面における他者との言動や行動等の相互作用にて生ずる他者に対する感情および他者との間に生ずる互いの役割を含んだ関係。

IV. 研究方法

1. 研究デザイン

自記式質問紙による量的横断的記述研究である。

2. 研究対象者

A市内の総合病院・個人病院に妊婦健診へ通っている初めて妊娠を継続し, 就業をしている妊婦を対象とした。

経妊婦では妊娠の受容過程を経験していることから, 純粋な他者との関係性の影響を抽出することが難しいと考え, 今回は初妊婦を対象とした。

3. 調査方法

1) 研究協力依頼および質問紙の配布・回収方法

A市内の総合病院・診療所の施設代表者に研究の依頼を行った。協力の得られた施設のスタッフが条件に合う初妊婦を選定し, 選定された初妊婦に研究の趣旨を説明し質問紙と返信用封筒一式を手渡した。回収は, 研究対象者が返信用封筒に入れ投函する方法をとった。

2) 調査期間: 平成24年8月～平成24年9月

3) 初妊婦の妊娠の受容を促進する経験項目の作成

先行研究 (金谷, 2018) で明らかになった【全面的に支えられる経験】【赤ちゃんの存在を認められる経験】【妊婦として他者と新たな関係を構築する経験】を構成していた初妊婦と他者との日常生活に即した経験を初妊婦の語りから抽出した。内容は夫・実母・同僚からサポートを受ける経験や赤ちゃんについて会話をする経験等であり, 「夫・実母・同僚との関係性」経験項目とした。同様に【他者との関係性を肯定的に捉え感謝をする経験】を構成していた初妊婦と他者との日常生活の経験を初妊婦の語りから抽出した。内容は胎児への愛着および妊娠をした自己を前向きに捉える内容であり, 「自身の気持ち」経験項目とした。

「夫・実母・同僚との関係性」経験項目は20項目抽出し, 「自身の気持ち」経験項目は10項目を抽出した。心理学を専門としている指導者より助言を受け, 回答のしやすさや回答時間を考慮すること, 初妊婦の経験に近い

内容となること、3者との経験が偏らないことを心掛け推敲を重ねた。その結果、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目は16項目、「自身の気持ち」経験項目は5項目を設定した。

4. 調査項目

1) 初妊婦の妊娠の受容を促進する経験項目

「夫・実母・同僚との関係性」経験項目（16項目）、「自身の気持ち」経験項目（5項目）は、「よくあてはまる」「あてはまる」「どちらともいえない」「あてはまらない」「まったくあてはまらない」の5段階で問うものであり、得点が高いほど初妊婦は他者との関係性において妊娠の受容を促進する経験をしていたことを示す。

2) 日本語版Prenatal Self-Evaluation Questionnaire

Ledermanが開発した、妊娠時の心理・社会的側面の適応状態を評価する尺度を岡山他（2002）が日本語に訳し、信頼性と妥当性を証明した尺度である。これらは、不安定であると点数が高くなる不安定尺度であり、各下位尺度は独立した側面を評価できるスケールであることも証明されている。以下、JPSEQと記載する。今回は「自身の気持ち」経験項目に妊娠を肯定的に受け止める内容が含まれていたことから、妊娠の受容との関連を把握するために下位尺度の＜妊娠の受容＞、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目は夫・実母との日常生活の経験が含まれていることから、夫・実母との関連を把握するために下位尺度である＜夫との関係＞、＜実母との関係＞を使用する。なお、開発者より使用許可を得た。

3) 職場用ソーシャル・サポート尺度（15項目）

小牧他（1993）が開発した「知覚されたサポート」の尺度である。5件法で回答し、サポートを得られていると知覚されているほど、得点が高くなるように設定されている。「夫・実母・同僚との関係性」経験項目において同僚との経験が含まれているので、関連を把握するために使用する。なお、職場用ソーシャル・サポートが掲載されていた書籍の監修（堀，2001）を参考に、本研究は非営利目的であり、尺度の使用許可を得る必要はないと判断した。

4) 胎児への愛着尺度（21項目）

Muller, E.M. (1993) が開発した母親の胎児への愛着尺度（Prenatal Attachment Inventory）を辻野他（2000）が日本語に訳し、信頼性を証明したものである。得点が高いほど、胎児への愛着があることを示す。「自身の気持ち」経験項目が妊娠の受容や胎児への愛着を示す内容であったことから、関連を把握するために使用する。なお、開発者より使用許可を得た。

5) 研究対象者の属性

妊娠週数、妊娠の計画性の有無、就業形態、産前産後休暇や育児休暇の取得のしやすさについて「1. 取得しにくい」から「5. 取得しやすい」の5段階で確認をした。

5. 分析方法

各尺度の方法に従い得点を算出し、得点の比較は対応のある2群間ではWillcoxon符号付順位検定、対応のない2群間ではMann-Whitney U検定、対応のない3群間ではKruskal-Wallis検定を行った。尺度間の相関はSpearmanの順位尺度係数を用いた。相関関係は、 $\pm 0.2 \leq \rho < \pm 0.4$ を弱い関係、 $\pm 0.4 \leq \rho < \pm 0.6$ を中程度の関係、 $\rho \geq \pm 0.6$ を強い関係とした。

初妊婦の妊娠の受容を促進する経験項目である「夫・実母・同僚との関係性」、「自身の気持ち」の経験項目の経験項目それぞれの因子構造を確認するために探索的因子分析を行った。項目内容から因子間に相関があると仮定されるため、主因子法・プロマックス回転の手法を選択した。その後、内的整合性係数（Cronbachの α 係数）を算出した。妊娠の受容を促進する経験項目の「自身の気持ち」経験項目、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目をそれぞれ従属変数とし、一方の妊娠の受容を促進する経験項目とその他の尺度を独立変数として重回帰分析を行った。検定の有意水準は5%未満とし、統計ソフトSPSSver.20を使用した。

6. 倫理的配慮

調査依頼文書には、プライバシー保護の保証、調査への参加は任意であること、調査への不参加や同意後の撤回の保証および不利益を被らないことを保証すること、質問紙の投函をもって研究参加への同意とすること、調査結果は関連学会で発表をすることを掲載した。本調査は岩手県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施

した（承認番号71）。

V. 結果

1. 研究対象者の属性

質問紙は112部配布し、回収は98部であった（回収率87.5%）。そのうち、経験項目や尺度の回答に不備があった質問紙を除き、68部を分析対象とした（有効回答率69.4%）。妊娠末期が43名（63.2%）であり、平均妊娠週数は29.3週（SD7.70）であった。今回の妊娠は計画的であると答えた者は44人（64.7%）であった。また、就業状態については、常勤の者は51人（75.0%）、パートの者は6人（8.8%）、アルバイトの者は1人（1.5%）、妊娠判明後に退職した者は7人（10.3%）、その他3人（4.4%）であった。

職場における産前産後休暇の取得のしやすさは平均3.90点（SD1.49）であり、育児休暇の取

得のしやすさは平均3.57点（SD1.60）であった。産前産後休暇と育児休暇の取得のしやすさを比較したところ有意差があった（ $p=0.002$ ）。希望する育児休業期間は平均9.5か月を希望しており、産後休暇と合わせて約1年間の休暇取得を希望していることが分かった。また、勤務状況が常勤の者で、育児休暇について取得できないので希望しないと答えた者が2名、取得を希望するか否か悩んでいると答えた者が3名いた（表1、表2）。

2. 各経験項目および各尺度の平均点・標準偏差

初妊婦の妊娠の受容を促進する「夫・実母・同僚との関係性」経験項目は平均51.73点（SD5.75）、「自身の気持ち」経験項目は平均18.69点（SD1.35）であった。不安定尺度

表1 研究対象者の属性

N=68

		人	%
妊 娠 各 期	初 期	4	5.9
	中 期	21	30.9
	末 期	43	63.2
妊 娠 の 計 画 性	あ り	44	64.7
	な し	24	35.3
就 業 形 態	常 勤	51	75.0
	パ ー ト	6	8.8
	ア ル バ イ ト	1	1.5
	妊 娠 判 明 後 退 職	7	10.3
	そ の 他	3	4.4

表2 研究対象者の妊娠週数、産前産後休暇・育児休業の取得のしやすさ

N=67

	N	平 均 値	中 央 値	最 小 値	最 大 値	p
妊 娠 週 数 (週)	68	29.3	30.5	10	40	—
産 前 産 後 休 暇 の 取 得 の し や す さ (点)	68	4.01	5.0	1	5	.002
育 児 休 暇 の 取 得 の し や す さ (点)	67	3.57	4.0	1	5	
希 望 す る 育 児 休 暇 期 間 (か 月)	54	9.5	10.0	0	24	—

※ 産 前 産 後 休 暇 ・ 育 児 休 暇 の し や す さ の 比 較 N = 67 ,

Wilcoxon 符 号 付 順 位 和 検 定

であるJPSEQの＜夫との関係＞は平均11.18点（SD3.30）、＜実母との関係＞は平均15.36点（SD5.00）、＜妊娠の受容＞は平均20.85点（SD4.81）であった。PAIの平均点は、56.82点（SD11.34）、職場用ソーシャル・サポートは49.30点（SD10.66）であった（表3）。

各経験項目および尺度の平均点を妊娠の計画性の有無と就業形態（常勤・アルバイト・パートの3群）を比較した。その結果、妊娠の計画性の有無で有意差が認められたものはJPSEQ＜妊娠の受容＞（ $p=.041$ ）であった（表4）。また、就業形態と各尺度の平均点の比較は、いずれも有意差がなかった（表5）。

3. 初妊婦の妊娠の受容を促進する経験項目の因子構造・内的整合性の分析結果

1) 「夫・実母・同僚との関係性」経験項目

固有値1以上の因子数は、4因子抽出された。抽出された因子数で再度、同様の因子分析を行った結果、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目において因子負荷量.04を下回ったのは、「夫が赤ちゃんのことを語るのを聞くと嬉しい」「夫との関係が“夫婦”から“家族”になるのはさみしい」「同僚の先輩ママからの妊娠・出産・子育ての助言を聞くことは嬉しい」の3項目であった。これらを除外し、最終的に13項目で因子分析を行った。各因子の寄与率は第1因子から27.58%、10.96%、7.12%、6.66%であり、これら因子の累積寄与率は52.34%であった。

次に、各因子の意味内容を解釈し命名を行った。第1因子は、実母からのサポートおよび子育て経験の項目で構成されていたので、「実母からのサポート・子育ての伝承」と名づけた。第2因子は、夫からのサポート

や気遣いの項目で構成されていたため、「夫からの心身のサポート」と名づけた。第3因子は、職場内における仕事および子育てのサポートに関する項目から構成されていたことから、「仕事における同僚からのサポート」と名づけた。第4因子は、同僚との関係性に関する項目で構成されており、同僚へ恐縮する気持ちと同僚との赤ちゃんの話を共有する喜びの項目と相反する項目で構成されていたため、「同僚とのアンビバレンスな関係性」と名づけた。信頼係数は、「実母からのサポートと子育ての伝承」では $\alpha=.85$ 、「夫からの心身のサポート」では $\alpha=.67$ 「仕事における同僚からのサポート」は $\alpha=.61$ 、「同僚とのアンビバレンスな関係性」は $\alpha=.46$ であった（表6）。

2) 「自身の気持ち」経験項目

固有値1以上の因子数は、2因子が抽出された。抽出された因子数で、同様の因子分析を行った結果、「自身の気持ち」経験項目において因子負荷量が.04を下回ったのは「妊娠による心身の不調を理解してくれる人がいることは嬉しい」であった。この項目を除外し、最終的に4項目で因子分析を行った。因子負荷量は第1因子から34.72%、7.89%であり、累積因子負荷量は42.61%であった。

第1因子は、他者から受けるサポートや他者が妊娠を喜ぶ項目であったため、「他者からの祝福とサポート」と名づけた。第2因子は、妊婦自身の妊娠判明時の嬉しさの項目で構成されていることから、「妊娠の喜び」と名づけた。1項目のみで構成されており、因子として不適切であるが因子負荷量が大きく、就労初妊婦の他者との関係性における妊娠の受容を理解するためには重要な因子と判断し、

表3 各経験項目尺度の平均点・標準偏差

N=68

各 経 験 項 目 ・ 尺 度 名	平 均 値	標 準 偏 差	中 央 値	最 小 値	最 大 値
「夫・実母・同僚との関係性」経験項目	51.73	5.75	52.00	28.00	61.00
「自身の気持ち」経験項目	18.69	1.35	19.00	13.00	20.00
JPSEQ＜夫との関係＞	11.18	3.30	11.00	7.00	19.00
JPSEQ＜実母との関係＞	15.36	5.00	14.00	10.00	29.00
JPSEQ＜妊娠の受容＞	20.85	4.81	20.00	13.00	38.00
胎児愛着尺度（PAI）	56.82	11.34	56.00	31.00	84.00
職場用ソーシャル・サポート	49.30	10.66	51.00	13.00	65.00

このまま採用することとした。なお、「他者からのサポートと祝福」の信頼係数は $\alpha = .66$ であった（表7）。

4. 初妊婦の妊娠の受容を促進する経験項目と各尺度間の相関係数

初妊婦の妊娠の受容に影響をする経験項目と各尺度間の相関係数を示す（表8）。以下、いずれも統計的に有意な相関がみられた。

「夫・実母・同僚との関係性」経験項目と不安定尺度であるJPSEQ<実母との関係>（ $\rho = -.432, p = .001$ ）と中程度の負の相関にあり、<妊娠の受容>（ $\rho = -.333, p = .011$ ）と弱い負の相関にあった。また、職場用ソーシャル・サポートとは中程度の正の相関にあった（ $\rho = .466, p = .000$ ）。

「自身の気持ち」経験項目は、不安定尺度であるJPSEQ<妊娠の受容>とは負の相関にあり（ $\rho = -.404, p = .002$ ）と中程度の負の相関にあった。

「夫・実母・同僚との関係性」経験項目と「自身の気持ち」経験項目は、弱い正の相関にあった（ $\rho = .391, p = .002$ ）。

5. 妊娠の受容を促進する経験項目の要因

「夫・実母・同僚との関係性」経験項目に影響をする要因を探索するため、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目の得点を従属変数、「自

身の気持ち」経験項目、JPSEQ<夫との関係>、<実母との関係>、<妊娠の受容>、胎児愛着尺度の得点を独立変数として重回帰分析（ステップワイズ法）を行った。その結果、JPSEQ<実母との関係>（ $\beta = -.483, p = .000$ ）、「自身の気持ち」経験項目（ $\beta = .313, p = .001$ ）、「職場のソーシャル・サポート」（ $\beta = .226, p = .014$ ）の3変数が独立変数であった。（調整済み $R^2 = .522$ ）。以上より、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目には、<実母との関係>が最も影響しており、次に「自身の気持ち」経験項目、3番目に「職場のソーシャル・サポート」が影響をしていることがわかった（表9）。

同様に、「自身の気持ち」経験項目に影響する要因を探索するため、「自身の気持ち」経験項目の得点を従属変数、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目、JPSEQ<夫との関係>、<実母との関係>、<妊娠の受容>、胎児愛着尺度の得点を独立変数として重回帰分析（ステップワイズ法）を行った。その結果、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目（ $\beta = .375, p = .001$ ）、JPSEQ<妊娠の受容>（ $\beta = -.345, p = .002$ ）の2変数が独立変数であった（調整済み $R^2 = .334$ ）。以上より、「自身の気持ち」経験項目には、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目が最も影響しており、次いで<妊娠の受容>が影響していることが分かった（表10）。

表4 妊娠性の計画性の有無と各経験項目・各尺度の平均点の比較

N=68

	妊 娠 の 計 画 性	平 均 値	中 央 値	最 小 値	最 大 値	p
「夫・実母・同僚との関係性」経験項目	あり（n=44）	52.07	51.50	38.00	61.00	.960
	なし（n=24）	51.08	53.00	28.00	59.00	
「自身の気持ち」経験項目	あり（n=44）	18.82	19.00	16.00	20.00	.834
	なし（n=24）	18.50	19.00	13.00	20.00	
JPSEQ<夫との関係>	あり（n=44）	10.58	10.00	7.00	18.00	.115
	なし（n=24）	12.25	13.00	7.00	19.00	
JPSEQ<実母との関係>	あり（n=44）	15.39	14.00	10.00	29.00	.894
	なし（n=24）	15.42	13.50	10.00	29.00	
JPSEQ<妊娠の受容>	あり（n=44）	19.84	19.00	13.00	38.00	.041*
	なし（n=24）	22.58	22.50	16.00	30.00	
胎児愛着尺度（PAI）	あり（n=44）	56.02	56.50	36.00	77.00	.590
	なし（n=24）	57.83	55.00	31.00	84.00	
職場用ソーシャル・サポート	あり（n=44）	48.50	50.50	22.00	63.00	.277
	なし（n=24）	50.42	52.00	13.00	65.00	

Mann-Whitney の U 検定 * < .05

VI. 考察

1. 研究対象者の属性

研究対象者の約75%が常勤職員として就労しており、常勤職員としての仕事と責任を持ち、所属機関によって差はあると思われるが常勤としての処遇を持っている集団である。また、妊娠末期の初妊婦が約63%ということから、他者との関係性を築きながら妊娠の受容のプロセスを踏んでいる集団と解釈でき、本調査の分析対象として問題ないと考える。

また、研究対象者達は、産前産後休暇を取得しやすいと認識しているが、育児休暇は産前・産後休暇よりも取得しにくいと感じていた($p=0.02$)。研究対象者の多くが常勤職員であったことから、育児休業期間中の自身の欠員による職場への影響を懸念した結果ではないかと考える。

2. 就労初妊婦の妊娠の受容を促進する経験について

1) 妊娠の受容と就労初妊婦の妊娠の受容を促進する経験項目について

「夫・実母・同僚との関係性」および「自身の気持ち経験項目」はそれぞれJPSEQ<妊

娠の受容>と相関関係を示した。このことから、「夫・実母・同僚との関係性」および「自身の気持ち」経験項目は妊娠の受容を促進する内容であったと解釈できる。

2) 「夫・実母・同僚との関係性」経験項目

「夫・実母・同僚との関係性」の経験項目について探索的因子分析をした結果、「実母からのサポート・子育ての伝承」「夫からの心身のサポート」「仕事における同僚からのサポート」「同僚とのアンビバレンスな関係性」の4つ因子が明らかになった。因子の内的整合性が低いながらも、尺度間においては不安定尺度であるJPSEQ<夫との関係><実母との関係>と負の相関にあったこと、職場用ソーシャル・サポートと有意な正の相関であったことから、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目内容の適切性・正当性が示された。この経験項目は、先行研究（金谷, 2018）で明らかになった【全面的に支えられる経験】および【赤ちゃんの存在を認められる経験】、【妊婦としての他者と新たな関係性を構築する経験】を基に作成をした経験項目であるが、因子が夫・実母・同僚のそれぞれに分かれた。その理由として、「夫が赤ちゃん

表5 就業形態と各経験項目・各尺度の平均点の比較

N=58

	就業形態	平均値	中央値	最小値	最大値	p
「夫・実母・同僚との関係性」経験項目	常勤 (n=51)	51.90	52.00	28.00	59.00	.301
	パート (n=6)	54.16	55.00	48.00	61.00	
	アルバイト (n=1)	47.00	—	—	—	
「自身の気持ち」経験項目	常勤 (n=51)	18.76	19.00	10.00	20.00	.999
	パート (n=6)	18.83	19.00	17.00	20.00	
	アルバイト (n=1)	19.00	—	—	—	
JPSEQ<夫との関係>	常勤 (n=51)	10.80	10.00	7.00	19.00	.481
	パート (n=6)	12.33	12.50	8.00	18.00	
	アルバイト (n=1)	9.00	—	—	—	
JPSEQ<実母との関係>	常勤 (n=51)	15.39	14.00	10.00	29.00	.428
	パート (n=6)	13.33	12.00	10.00	22.00	
	アルバイト (n=1)	16.00	—	—	—	
JPSEQ<妊娠の受容>	常勤 (n=51)	20.14	19.00	13.00	29.00	.921
	パート (n=6)	19.50	19.50	15.00	26.00	
	アルバイト (n=1)	20.00	—	—	—	
胎児愛着尺度 (PAI)	常勤 (n=51)	55.43	56.00	31.00	83.00	.368
	パート (n=6)	56.83	52.00	39.00	84.00	
	アルバイト (n=1)	72.00	—	—	—	
職場用ソーシャル・サポート	常勤 (n=51)	49.04	51.00	13.00	65.00	.352
	パート (n=6)	51.50	53.50	40.00	59.00	
	アルバイト (n=1)	30.00	—	—	—	

Kruskal Wallis 検定

んのことを語るのを聞いて嬉しい」は探索的因子分析の過程で削除された一方で、実母や同僚が主語である同内容の項目は残った。この事実から、同じ経験であっても共に経験をjする対象によって就労初妊婦の捉え方や就労初妊婦に与える影響が異なっている可能性があるjと推察される。

さらに、同僚に関する内容は2因子に分かれた。興味深いことは、「同僚とのアンビバレンスな関係性」の因子である。同僚への配慮の気持ちと、同僚と赤ちゃんの話をすることの嬉しさと相反する内容で構成されており、実母や夫とは異なる関係性を構築してい

る現状が明らかになった。就労妊婦は、職場への影響を考え妊娠報告をためらう(中村他, 2018)ことや妊娠後に職場の対人関係の中で受ける優遇や配慮に対する申し訳なさという感情が含んだ罪悪感を抱く(和田他, 2016)等、自身の妊娠によって生じる職場への影響を考えている。就労妊婦が同僚に思いを馳せることで抱く感情と共に同僚との関係性を構築していることは、特徴的なことといえる。そして、本研究の対象者が初妊婦であったからこそ、両価性の経験項目が一つの因子にまとまった可能性がある。

3)「自身の気持ち」経験項目

表6 初妊婦の受容を促進する「夫・実母・同僚との関係性」経験項目因子分析結果

N=68

因子負荷量						共通性
	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子		
第1因子 実母からのサポートと子育て伝承 $\alpha = .85$						
(16-10) 実母へ頼りたい気持ちがある	.894	-.145	-.033	.260	.737	
(16-2) 実母が赤ちゃんのことについて語るのを聞いて嬉しい	.854	.095	-.096	-.169	.796	
(16-7) 実母は、いつでもあなたを積極的にサポートしてくる	.758	.032	.089	-.098	.686	
(16-12) 妊娠後、実母との連絡回数や会う回数が増えた	.667	-.002	-.007	.109	.430	
(16-13) 実母の妊娠・出産・子育ての経験を聞くことは嬉しくない	-.507	-.299	-.022	.097	..474	
第2因子 夫からの心身のサポート $\alpha = .67$						
(16-6) 夫は、いつでもあなたの体調を気遣ってくれる	-.042	.759	.164	-.083	.661	
(16-5) 夫は、妊娠によるあなたの心身の不調を気遣ってくる	.151	.719	-.036	.115	.572	
(16-4) 夫は、あなたの妊娠が分かってから、積極的に掃除等の家事を積極的に行うようになった	-.018	.604	-.022	.106	.350	
第3因子 仕事における同僚からのサポート $\alpha = .61$						
(16-8) 同僚は、あなたの仕事をサポートしてくれる	.063	-.069	.877	-.019	.796	
(16-9) 職場の制度は、あなたの子育てのサポートをしてくる	-.136	.278	.536	.088	.367	
第4因子 同僚とのアンビバレンスな関係性 $\alpha = .46$						
(16-15) 私は、妊娠をしたことで同僚に迷惑をかけている	.108	-.123	.212	.581	.387	
(16-3) 同僚と赤ちゃんの話をすることの嬉しい	.163	-.239	.158	-.509	.356	
(16-16) 妊娠後、同僚の未婚女性や子どもがいない既婚女性に気遣うようになった	.075	.105	-.023	.436	.234	
経験項目全体 $\alpha = .61$						
固有値	3.95	1.87	1.54	1.23		
寄与率 (%)	27.58	10.96	7.12	6.66		
相関係数 第 1 因子	1	.275	.400	-.153		
第 2 因子		1	.223	-.128		
第 3 因子			1	-.087		
第 4 因子				1		
抽出後の累積寄与率 52.34%						

「自身の気持ち」経験項目を探索的因子分析した結果、「他者からの祝福・サポート」「妊娠の喜び」の2つの要因が明らかになった。「自身の気持ち」経験項目は、不安定尺度であるJPSEQ<妊娠の受容>およびPAIとの相関関係から、妊娠を肯定的に捉える側面については正確性・適切性が示された。また、不安定尺度であるJPSEQ<実母との関係>および職場用ソーシャル・サポート尺度との相関関係から、「自身の気持ち」経験項目には、実母と同僚の影響が強いことが分かった。初妊婦の共通性の高い経験として、妊娠を機に実母を頼る気持ちが高まり、実母からのサポートを受ける経験（岡山，2007）をしている。そのため、「自身の気持ち」経験項目に実母が影響していたと考える。また、就労初妊婦にとっても実母の支えは重要であることが分かった。

また、本研究の対象者の7割以上が常勤で働く初妊婦であった。そのため、常勤で働いている妊婦は非常勤に比べて自由裁量が小さく、心身共に負担を感じる（小泉他，2007）ことや妊娠をしたことで同僚へ迷惑をかけてはいけないとの自制心（和田他，2016）が生じていることから、就労妊婦は職場において心理的緊張の状態にあると考えられる。そのため、同僚からのサポートが妊娠を前向きに

捉える「自身の気持ち」の経験に影響したと推察される。

3. 就労初妊婦の妊娠の受容を促進する他者との関係性における経験の要因

「夫・実母・同僚との関係性」経験項目を従属変数とした重回帰分析では、実母との関係が最も影響しており、次いで「自身の気持ち」経験項目、職場のソーシャル・サポートが影響していることが明らかになった。実母とは、妊娠を契機に妊婦と実母の関係性は親密性と依存性が高まる（北村他，2001. 長鶴他，2002. 岡山他，2006. 岡山，2007）と言われている。また、実母との関係性の中でも、実母の肯定的な承認によって初妊婦は自身の妊娠に価値を見出す（岡山，2007）ことから、就労初妊婦にとっても実母の影響が強かったと考える。そして、同僚とは夫や実母とは異なる関係性を構築していくことから、職場のソーシャル・サポートが影響していたと考える。

「自身の気持ち」経験項目を従属変数とした重回帰分析では、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目が最も影響しており、次いで<妊娠の受容>が影響していた。他者との関係性を自身がどのように経験したかは、妊娠を肯定する一助となることから妊娠の受容が影響していたと考える。

表7 初妊婦の妊娠の受容を促進する「自身の気持ち」経験項目因子分析結果

N=68

		因子負荷量		共通性
		第 1 因子	第 2 因子	
第 1 因子　他者からのサポートと祝福 $\alpha = .66$				
(5-4) 妊娠したことにより，他者からサポートを受ける機会が増えた		.730	-.243	.428
(5-5) 他者からのサポートに感謝を抱く		.672	.024	.468
(5-2) 他者が妊娠を喜んでくれることは嬉しい		.574	.296	.576
第 2 因子　妊娠の喜び				
(5-1) 妊娠が分かったとき，嬉しかった		-.111	.525	.234
経験項目全体 $\alpha = .59$				
固有値		1.90	1.03	
寄与率（％）		34.72	7.89	
相関係数　第 1 因子			0.46	

抽出後の累積寄与率 42.61%

そして、「夫・実母・同僚との関係性」および「自身の気持ち」経験項目が互いに影響しあっていた。対人関係は、当事者の認知や行動が対人関係に影響するだけではなく、対人関係が当事者の認知や行動に影響を与える（吉田他, 2016）。そのため、夫や実母、同僚との関係性における経験を自身がどのように認識をしているかが、

就労初妊婦として夫・実母・同僚と新たな関係を構築していく上で重要なことだと推察される。

4. 就労初妊婦への妊娠の受容への看護の取り組み

本研究で、就労初妊婦は同僚との関係性にお

表8 各尺度間の相関

		1	2	3	4	5	6	7
1	「夫・実母・同僚との関係性」 経験項目	ρ p 値	—					
2	「自身の気持ち」経験項目	ρ p 値	.391** .002	—				
3	JPSEQ：夫との関係	ρ p 値	-.236 .077	-.164 .222	—			
4	JPSEQ：実母との関係	ρ p 値	-.432** .001	-.130 .330	.379** .004	—		
5	JPSEQ：妊娠の受容	ρ p 値	-.333** .011	-.404** .002	.449** .000	.444** .000	—	
6	胎児愛着尺度	ρ p 値	.225 .090	.207 .119	-.327* .013	-.447** .000	-.389* .003	—
7	職場用ソーシャル・サポート	ρ p 値	.466** .000	.243 .066	-.157 .244	-.272 .039	-.170 .203	.088 .509

ρ = Spearman の順位相関係数, * $p < .05$, ** $p < .01$

表9 「夫・実母・同僚との関係性」経験項目を従属変数とした重回帰分析 N=68

独立変数	B	標準偏回帰 係数 β	p 値
JPSEQ 〈実母との関係〉	-.555	-.483	.000***
「自身の気持ち」経験項目	1.332	.313	.001**
職場用ソーシャル・サポート	.122	.226	.014*

$R^2 = .544$, 調整済み $R^2 = .522$, * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

表10 「自身の気持ち」経験項目を従属変数とした重回帰分析 N=68

独立変数	B	標準偏回帰 係数 β	p 値
「夫・実母・同僚との関係性」経験項目	.008	.375	.001**
JPSEQ<妊娠の受容>	-.097	-.345	.002**

$R^2 = .354$, 調整済み $R^2 = .344$, ** $p < .01$

いて特徴的な関係構築をしていることが明らかになった。職場において妊娠に否定的な思いを抱くことなく、同僚と良好な関係性を構築することは就労初妊婦にとって大きな課題といえる。臨床現場では、看護職者が産後支援のために妊娠期から夫や実母との関係性について情報収集を行い関わっていく場面が多々あるが、看護職者が就労妊婦の同僚との関係性について情報を得る機会は少ない。そのため、各妊婦の“妊娠の受容”の状況やプロセスを、看護職者は十分に理解できていない可能性がある。全国的に、分娩の集約化や特定妊婦・ハイリスク妊婦が増加している状況下で、身体的・社会的ローリスク妊婦に時間を割くことは難しいことかもしれない。しかし、就労初妊婦の妊婦健診において、就労初妊婦と同僚との関係性の認識やその関係性を受け看護職者が関わっていくことは、就労初妊婦の妊娠の受容の一助および同僚との関係性の構築の一助になると考える。

VII 本研究の限界と今後の課題

本研究は、参加者が限られた市町村であり地域特性がある可能性が高いこと、サンプルサイズが小さいため、一般化することは難しい。また、妊娠の受容を促進する「夫・実母・同僚との関係性」経験項目に影響のあった3つの変数では約54%、「自身の気持ち」経験項目に影響のあった2つの変数では約35%程度を説明しているのみであった。両経験項目共に、他に影響している要因があること、妊娠中のキーパーソンとされている夫との関係性がそれぞれの経験項目に影響しなかった理由を説明ができないことが、本研究の限界である。

しかし、本研究は尺度開発ではないとしつつも、就労初妊婦の日常生活から抽出した他者との関係性における経験が妊娠の受容と関係があったことから、就労初妊婦の妊娠の受容を促進する他者との関係性を把握することは意義があると考えられる。今後は、就労初妊婦の妊娠の受容に日常生活において夫との関係性がどのように関わっているのかを明らかにしていくこと、非就労妊婦の他者との関係性における妊娠の受容と比較検討していくことが課題である。

VIII 結論

1. 就労初妊婦の妊娠の受容を促進する「夫・実母・同僚との関係性」経験項目には、「実

母からのサポート・子育ての伝承」「夫からの心身のサポート」「仕事における同僚からのサポート」「同僚とのアンビバレンスな関係性」の4つの因子が存在していた。

2. 就労初妊婦の妊娠の受容を促進する「自身の気持ち」経験項目には、「他者からの祝福・サポート」「妊娠の喜び」の2つの因子が存在していた。
3. 就労初妊婦の妊娠の受容を促進する「夫・実母・同僚との関係性」経験項目には、＜実母との関係＞が最も強く、ついで「自身の気持ち」経験項目、＜職場用ソーシャル・サポート＞が影響していた。
4. 就労初妊婦の妊娠の受容を促進する「自身の気持ち」経験項目には、「夫・実母・同僚との関係性」経験項目が最も影響が強く、ついで＜妊娠の受容＞が影響していた。

IX 謝辞

本研究にご協力いただきました初妊婦の皆様、市町村関係者および病院・診療所の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。なお、本研究は平成24年度岩手県立大学社会福祉学部研究科修士論文の一部である。

引用文献

- 母子保健事業団 (2010)：母子保健の主なる統計 平成22年度発刊，東京。
- 堀洋道 (監) (2001)：心理測定尺度集Ⅱ－人間と社会のつながりをとられる＜対人関係・価値観＞，i-iii，329-332，サイエンス社，東京。
- 金谷掌子 (2018)：初妊婦の妊娠の受容を促進する他者との関係性における経験，岩手看護学会誌，12 (2)，29-36。
- 北村琴美，無藤隆 (2001)：成人の娘の心理的適応と母娘関係：娘の結婚・出産というライフイベントに着目して，発達心理学，12 (1)，46-57。
- 小泉智恵，福丸由佳，中山美由紀，他 (2007)：妊娠期の女性の働き方と心理的健康，御茶ノ水女子大学子ども発達教育研究センター紀要，4，1-13。
- 小牧一裕，田中国夫 (1993)：職場におけるソーシャルサポートの効果，関西学院大学社会学部紀，67，57-67。
- 厚生労働省雇用機会均等・児童家庭局 (2010)：平成23年版勤労女性の実情，<http://www.>

- mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/09.html.
- 厚生労働省 (2010)：厚生労働白書 (平成22年度版).
- 工藤優子 (2010)：妊娠初期の抑うつ状態の妊婦の心理状態に関する一考察, 母性衛生, 51 (1), 127-136.
- Mary.E Muller (1993). Development of the Prenatal Attachment Inventory Western Journal of Nursing Research, 199-215.
- Mercer, R.T. A theoretical framework for studying factors that impact on the maternal role (1981). : Nursing Research, 30, 73-77.
- 長鶴美佐子, 高橋真理 (2002)：妊娠期における母娘の関係性の変化, 日本看護医療学会雑誌, 4 (2), 11-17.
- 中村水苗, 赤松恵美, 池内和代 (2018)：妊娠判明後との就労妊婦のマイナートラブルの現状と課題, 高知大学看護学会誌, 12 (1), 3-11.
- 西川みゆき, 玉山八重子 (2007)：就労初妊婦の母性意識に与える影響の検討－就業状況と就業志向, 夫婦関係の満足度からの影響－, 滋賀母性衛生学会誌, 7, 26-32.
- 小川彩, 中村康香, 跡上富美, 他 (2015)：就労妊婦における妊娠期の快適性の特徴, 母性衛生, 56 (2), 292-300.
- 岡山久代 (2002)：妊婦の胎児への愛着に対する実母ならびに夫との関係の影響－パス解析による因果モデルの検討－. 日本看護研究会雑誌, 25 (5), 15-25.
- 岡山久代 (2007)：初妊婦がとらえる実母との関係性の主観的体験－妊娠中の実母からの影響および実母との関係性の形成・変化－. 滋賀母性衛生学会誌, 7, 39-47.
- 岡山久代, 高橋真理 (2002)：日本語版 Prenatal Self-Evaluation Questionnaireの開発, 日本女性心身医学会雑誌, 7 (1), 55-63.
- 岡山久代, 高橋真理 (2006)：妊娠期における初妊婦と実母の発達的变化, 母性衛生, 47 (2), 455-463.
- Reva Rubin. Maternal Identity and the Maternal Experience (1984／新藤幸恵, 後藤桂子／1997)：母性論 母性の主観的体験, 62-68, 医学書院, 東京.
- 新道幸恵, 和田サヨ子 (1997)：母性の心理社会的側面と看護ケア, 第1版, 87-115, 医学書院, 東京.
- 辻野順子, 雄山真弓, 乾原正, 他 (2000)：母親の胎児及び新生児への愛着関連性と愛着に及ぼす要因－知識発見法による分析－, 母性衛生, 41 (2), 326-335.
- 植村裕子, 栄玲子, 松村恵子 (2010)：妊娠初期の女性における妊娠の受容に関する研究, 香川県立保健医療大学雑誌, 1, 35-41.
- 和田彩, 中村泰香, 跡上富美, 他 (2016)：就労妊婦の罪悪感：概念分析, 日本看護科学会誌, 36巻, 213-219.
- 吉田俊和, 橋本剛, 小川一美 (2016)：対人関係の社会心理学, 第3版, 219-224, ナカニシヤ出版, 京都.

Abstract

This study aimed to identify the factors in experiences that promote the acceptance of pregnancy in working primigravidae's relationships with others. Items to measure experience including "relationship with husband, own mother, and colleagues" and "one's own feelings" were developed. Research was conducted via a questionnaire survey, of which 112 were distributed, 98 collected and 68 analyzed using an exploratory factor analysis. Regarding "relationship with your husband, own mother and colleagues" four key factors were identified.

These were "support from own mother and child-rearing traditions," "physical and mental support from husband," "support from colleagues at work," and "ambivalent relationships with colleagues." In the item "one's own feelings," two factors became clear, namely, "blessings and support from others" and "joy of pregnancy." The item "relationship with husband, own mother, and colleagues" was influenced by the relationship with the pregnant woman's own mother, the item "one's own feelings," and social support at the workplace. Furthermore, the item "one's own feelings" was influenced by the item "relationship with husband, own mother, and colleagues" and acceptance of pregnancy.

Keyword : Working primigravidae, acceptance of pregnancy, relationships with others

